
ラッキーファンタジー 8つのペンダント

マシンナイト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラッキーファンタジー 8つのペンダント

【Nコード】

N9976F

【作者名】

マシーンナイト

【あらすじ】

埼玉県に住む1人の高校生、てんかいつばね天界翼。両親を奪われた翼は他の7人のソルジャーと8つのペンダントと共に今、立ち上がる！そして「らきすた」でおなじみのあの人も登場！！

MISSON 00 悲シキ過去

それは真夜中の出来事だった…

「父さん…母さん…」

突然何者かがこの家に入り込んだ。

そう…壁を突き破って

家はメキヤクチャになっている

???「ウオオオオオオオオン」

とても生物が発せる声ではない

そしてデカイ両腕…

かすかに聞こえる歯車の音…

“そいつ”はあるマシンに乗っていたのだ

そしてそのデカイ両腕を操り、

両親を……………さらっていったのだ

「父さん！母さん！」

だがその声も虚しくとどかず、空高くに消えていった……

MISSION 00 完

くじく

MISSION 01 再会

3月31日

「ふあゝ、暇だゝ」

1人の高校生が埼玉の街を歩いていた

New face

てんかいっぱき
天界翼

この物語の主人公（的な存在）。

二卵性双生児の生き別れの弟。

両親を奪われた悲しみや苦しみに耐えながら、

日々の生活を過ごしている。

ちなみに陵桜学園に通っており、明日始業式を迎える…

「しっかし腹減ったなあ」

翼は待ち合わせの場所についていた。

「兄さん遅いなあ、もう来てもいいのに」

そう、今日から生き別れだった兄が埼玉に転校してくるのだ。

その記念に食事を奢る約束をしている。

「待たせたな」

「あつ、兄さん！」

New face てんかいのぼる
天界登

クールなイメージが特徴的な二卵性双生児の生き別れの兄。翼が心配になり、陵桜学園に転校することになった。今回の食事の件もあり、時間にルーズなところがある…

「遅いよ兄さん！もう約束の時間過ぎてるって！」

「悪い、人助けしてたから遅れた」

懐かしいような懐かしくないような言い訳だな…

「じゃあ飯行こうか」

そう言つて2人は歩き始めた

くレストランにてく

翼はエビピラフ、登はエビグラタンを注文した。

流石は兄弟、好みが似てるw

「何年ぶりだろうな。こうして2人で食事するのは」

登はテーブルに置かれたエビグラタンを食べながら言った。

「随分昔のことになるよな」

翼もそう言っつてエビピラフを口に入れていく。

「兄さんの暮らしはどうだった？」

「ばあさんには家事だの風呂掃除だの手伝わされてた。あまり休む暇がなかったな」

登は転校する前まで、祖母の家で暮らしていた。

祖父はこの世をあとにしたので、祖母と2人暮らしだった。

そのため、手が離せないときは時間の有効活用だとか言っつて、様々なことを手伝わされていた。

そんなこんなな会話と食事を終えて、店をあとにした…

……だが

そこで事件が

起こった……………

MISSION 01 完

UNU

M I S S O N 0 1 再会（後書き）

ども、マシンナイトです！

投稿したのも今日で2つめに突入しました。

見てくださった方々、大感謝です！

次回執筆も頑張っていきたいと思います！

ではこの辺で！

翼が指差した先には…

「な、なんだあいつら?!」

百メートル先から、全身機械でおおわれ、電磁ガンを両腕に構えた集団が迫ってくる…

そう…2人の目にははつきりと“サイボーグ”が映っていたのだ!

New face サイボーグ

突如現れた電磁ガンを備えた集団部隊。

襲撃する目的は定かではないが、悪い奴らであることは確かである。“サイボーグ”だけあり、情はもたないが、人間のような身のこなしができる。

「どうしよう兄さん、このままじゃ街が荒らされてく…」

「……………逃げるぞ!」

そう言って登は翼の手を強引に引っ張って走り出した。

それにのせられ翼も走り出す

「兄さん、この街を何とかしなきゃ!」

「俺達に何ができるんだ!?それに相手はサイボーグなんだぞ?街

を救おうだの戦おうだの馬鹿なこと考える暇があつたら走れ！」

翼はこの街を救おうと提案したが、登によって即却下された。

それでも納得のいかない翼は

「敵も数匹だし、格闘技習つてたからあんな奴らなんて楽勝だろ！
？」

と、手を引き離そうとする。

翼は中学時代、格闘道場に3年間通つていたので、基本的な技から
ハイレベルな技までのある程度をマスターしているのである。

だが、翼の発言に呆れたのが、登の手を握る力が強くなり、

「他界したいのか！！今俺達がどんな状況におかれてるかわかつて
んのか！！」

と、情を込めて言い放つ。

「じゃあ兄さんは街が襲われてんのを見て、何も思わないの！？」

それでも翼は、登に問いかける。

「そりゃ俺だつて憎いよ。街を救いたいよ。力さえあれば」

「俺はどうしても救い出たい！力が欲しい！」

翼も登も、“救いたい”という思いは同じようだ

その時……………

????「カヲ貸ソウカ？」

「!？」

どこからともなく声がする

「だ、誰!？」

翼が問う

「ボクラハ白ノペンダントト黒ノペンダント」

「ペンダント……ト？」

登も茫然としている

????「デハ問ウ。コノ世界ヲ救ウカガ欲シイカ？ソノカワリ、数
多くノ不安ガ降りカカツテクルダロウ」

テレパシーで2人の脳に問いかけられる

そして……………

2人が出した答えは……………

「救いたい、力を貸してくれ!!」

「……………ヨシ、カラ貸ソウ」

その瞬間、翼と登はまばゆい光に包まれた……………

MISSION 02 完

つづく

くVSサイボーグ編く

MISSION 02

奇襲(後書き)

ども、マシオンナイトです！

お待たせしました、3作品目が完成いたしました！

今回はネタを浮かばせるのに苦労しました。

さて今回は、いよいよ2人がソルジャーに選ばれます！

どうぞ期待ください！

↳VSサイボーグ編↳ MISSION 03 二人ノソルジャー

またしても突然の出来事に、サイボーグ達も足を止め、立ち尽くしていた。

光が消えると、2人には“あるもの”が握られていた。

「おースゲー、矛だ！」

「俺は刃先が2つある鎌だ！」

そしてまたあの声がテレパシーで伝えられる

「コノ僕、白ノペンダントノ所持者ニハ光ノ矛、“シャイニングスピア”ヲ託シタ」

「ソシテコノ僕、黒ノペンダントノ所持者ニハ闇ノ鎌、“ダークスラッシャー”ヲ託シタ」

白のペンダント 所持者：天界翼 属性：光

矛先が3つある太くて大きめの矛、“シャイニングスピアを扱い、攻撃はもちろん、さまざま魔法を操ることもできる。

黒のペンダント 所持者：天界登 属性：闇

両サイドに刃がある鎌、“ダークスラッシャー”を扱い、俊敏な動きで相手を翻弄する。また、鎌を回転させて弾丸などを跳ね返すことも可能。

だが、登の後方には4体のサイボーグが電磁ガンを構え、チャージしている光景が、翼の目にははつきりと映っていたのだ。

「（…ヤバイ！） 兄さん伏せてて！！」

「！？」

「シャイニングボム！」

ドドドドーン

翼がそう唱えた瞬間、サイボーグの集まっている所が光におおわれ、中で爆発が起こった。

実はサイボーグに突撃する前、シャイニングボムという魔法が使えるということを知っていたのだ。

突撃開始から10分後……

この通りに来たサイボーグはすべて倒すことができ、ひとまず安心した2人であった。

「しっかし格闘技で鍛えてたとはいえ、怖かったな…」

「でもなんで俺たちが選ばれたんだろう？」

と、登は問いかける

すると、ペンダントからこんなことを告げられた

「“強イ意志”ダ」

「強い……意志？」

と、翼が問い返す

「僕ラハ君達ノ“救ウ力ガ欲シイ”トイウ心ニ応エタ」

「それだったら誰だってそう思うだろ？」

「イヤ、ボクラハソレ以上ノ物ヲ感ジトッタ」

「それ以上の……物？」

翼はそう言って唾を飲み込む

「ソレハ……………栄光ノ輝キ」

その時

ドドーーーーー

遠くのほうで何かが破壊されたような音が響きわたった

「ボクノ透視デハオソラク……………神社」

翼の体が一気に凍りつく

この辺で神社といえは1つしかない。

「アト残念ナオ知ラセダガ、二人ノ女性ガボクニ八浮カビアガッタ
……」

翼は目の前が真っ白になろうとした

「柊………かがみ、つかさ」

そう呟いた後、全速力で神社に向かっていった……

あとから登も追う

MISSION 03 完

つづく

↳VSサイボーグ編↳ MISSION 03 二人ノソルジャー（後書き）

次回予告！

登：次回、ラッキーファンタジー MISSION 04、“不意ヲ

ウタレタ先ニハ”

いくぞ、翼

くVSサイボーグ編くMISSION04不意ヲウタレタ先二八

サイボーグの手により、未だ神社は襲撃をうけている

「な、なんでこんな事になったのよ……」

「お姉ちゃん、私たち……どうなっちゃうの？」

「もう少しの辛抱よ。さっきまつり姉さんに連絡入れたから」

神社の奥にあるさいせん箱が前にある小屋みたいな所（頭の悪い作者でスマン……）の中で、二人の少女が身を隠していた……

n e w f a c e 柊かがみ

陵桜学園に所属する、柊家の三女。

ツリ目と紫がかったツイントールが特徴的。

外見はクールだが、実は友人と同じ学校に行きたくて文系選んだほどの寂しがり屋さんである。

ちなみにこの日は神社の掃除当番を任されていたという……

n e w f a c e 柊つかさ

陵桜学園に所属する、柊家の四女。

タレ目と紫がかったショートヘアに黄色のリボンが特徴的。

かがみとは対照的に成績はよくないが、唯一家庭科だけはかがみより優勢である。

かがみと共に、助けが来てくれることを必死で願っている……

さかのぼること20分ぐらい前

「はあ、明日からもつ3年生か」

と、落ち葉を掃除しているかがみが言った

「次こそこなちゃん達と同じクラスになれたらいいね〜」

そう言っつつかさは落ち葉を1ヶ所に集め続ける

柘家は1カ月ごとに神社を清掃することになっており、今月末の当番がかがみとつかさである。

現在父と母と長女は仕事関係で出かけており、次女のまつりはこの日は休日で家にいる。

突然、つかさがこんなことを言い出した

「そっぴゃお姉ちゃんて好きな人とかいる？」

「別に、今はいないけど…なんで急に？」

「いや、特に深い意味は無いんだけど、お姉ちゃんにもいるかなー
つて」

「ふーん」

なんだかんだ話しているうちに時間が過ぎていった

だが、思いもよらぬ嵐が襲いかかってきた…

ドーーーーン

大きな何かが破壊されたような音が聞こえた後、地面が揺れた

「何よこれ！？地震！？」

「お…お姉ちゃんあそこ！」

「え！？」

つかさが指差した先には……………

全身機械でおおわれ、電磁ガンを片手に備えた集団が確認できた。

既に唯一の入り口はふさがれており、次々と灯籠などを破壊してこちらに迫ってくる…

「お、お姉ちゃんどうしようー！？」

「……………こっち！」

かがみはつかさの手をひき、奥にあるさいせん箱が前におかれた建物の中に駆けていった。

建物の中

「お姉ちゃん、こわいよ〜」

と、つかさはかがみに身を寄せる

「じつとしてて、私も怖いんだから」

かがみはそう言ってポケットから携帯電話を取り出す

そしてナンバーを入力し、発信した

ブルルルルル……

ブルルルルル……ガチャ

「もしもしかがみ？」

かけた先はかがみの家、つまり留守番中のまつりである

「助けて！変な集団が神社の中を次々と破壊してるの！」

「は？」

当然現場にいないまつりは何のことかわからず、投げやりな言葉を吐き捨てる

「とにかく神社にきて！私たちは奥の小屋にいるから！」

「えー？私だつて今取り込んでんのよ」

「いいから来て！」

助けてほしいという思いからつい口調が強まる

「あーもうわかったわよ！行けばいいんでしょ？」

ガチャツ ツー…ツ…

そういわれた後、まつりの方から電話が切られた

そして現在……

「つかさ、もう少しだからね……」

かがみはつかさを強く抱きしめる

「い、痛いよお姉ちゃん」

「（私、絶対につかさを守りたい…今この時も、そして…：…これからも）」
ふと、かがみの心に強い意志が芽生えた…

一方、翼と登はようやく神社の前についた入り口付近にはサイボーグがうろつろしているそれに、なにかが破壊された形跡が…：

「2人とも、無事でいてくれ…！」

「いくぞ、翼」

登のかけ声で、2人は神社へと突っ込んでいった

「くらえ！」

ズサーーーーーー

登がサイボーグ1体をきりつける

それに気づいたサイボーグ達が破壊をやめ、次々と襲いかかってくる
「数なんて関係ない、フラッシュボム！」

バーーーーーー

光輝く爆発により、翼は5、6体ものサイボーグをまとめて倒したそこへ、数体のサイボーグが電磁ガンを構え、一斉にチャージしたそして、チャージした光線が一気に登に襲いかかる

「甘い、スピリフレクト！」

しかし登は瞬時にダーククラッシャーを高速回転させ、光線を跳ね返す

それが撃ってきた奴らに跳ね返っていく

ドドーーーーー

「やるね、兄さん！」

「よし、どんどんいぐぞー！」

「ラジャーー！」

そして1分後

神社にいたサイボーグは翼と登の手により全滅した

はずだった……

くVSサイボーグ編くMISSION04不意ヲウタレタ先二八(後書き)

次回予告

翼：兄さんと俺の手によって、サイボーグは全て撃破した！

しかし、新手の敵が俺たちに襲いかかってくる！

次回、ラッキーファンタジー8つのペンダント、“真打ちト烈火ノ炎”

お前……なんで

くVSサイボーグ編くMISSION 05 真打チト烈火ノ炎

サイボーグを倒し、すっかり安心した2人は、その場に立ちすくんでいた。

ふと、翼が思い出したかのように口が動いた

「そうだペンダント、すっかり忘れてたけど、早くその2人の女子の無事を確認しにいかないと」

と、ペンダントに訴えかける。しかし…

「……………」

「……………ペンダント？」

何の反応もない

翼も何かを感じたような気がしたが、それが何だか分からない。

ふと、登が小声で

「……………電子音がする」

と呟く

「電子音？」

翼は登の言った単語に疑問を感じる。

「……………まさか!!」

翼が答えを出した頃にはもう遅かった

「……………敵ダ!!」

ペンダントが声をあげると共に、2人はデカイ物体により、吹っ飛ばされた。

「………何？」

「あ……あれは!？」

翼と登が見た先には……………

「ウオオオオオン」

高さ7メートルはあると思われる巨体、いかにも頑丈そうな剛腕、

誰をも圧倒するその迫力はこれまで倒してきたサイボーグとは比べものにならなかった。

「ど…どうする?」

「…………やるしかない、行こう兄さん!」

翼のかけ声と共に、2人はその敵、いや、RPGで言えばボスと言つてもいい強大なものに立ち向かっていった

敵データ

名前：マシーンゴーレム

ランク：C

攻撃手段：打撃

タイプ：パワー

弱点：地

耐性：特になし

「くらえ!シャイニングボ…!」

「ウオオオオン」

ドドドドドド

「うわっ!?!」

翼は呪文を唱える際、衝撃波により吹っ飛ばされそうになり、阻止されてしまう

「翼、ちよつとさがってる。次は俺が行く」

登はそう言った後、マシーンゴーレムに猛突進していく

しかし

「オオオオオン」

雄叫びと同時にマシーンゴーレムは大ジャンプした。そしてその巨体が登に襲いかかる

どこからか声が聞こえたと思えば、サイボーグ達は焼きつくされていた。

2人もなにが起こったのかがわからず、しばらく茫然としていた

「翼が……やったのか？」

「いや、俺のペンダントの属性は光だし、あんな攻撃した覚えなし……」

2人がまたしても混乱している時、煙の中から人影が現れた

「まったくあんたたちは、男のくせにだらしないわよ」

「そつ、その声は!？」

煙から姿を表した人物……

紫がかつた髪にツインテール

「か、かがみ………お前………なんで」

「決まってるでしょ、この神社とつかさを守るためよ」

かがみは淡々と話していく

さっきの音に異変を感じたのか、かがみが呼んでおいたまつりもダツシユで入ってきた

「うわっ、何これ!？」

まつりが驚くのも無理はない。神社の所々が破壊され、サイボーグ達が倒されている光景がはつきりと目に映ったのだから

n e w f a c e 柊まつり

柊家の次女。

現在大学生だがこの日は休日である。

よく喧嘩やトラブルの元になるが、ちゃんとかがみやつかさのことも考えている。

顔立ちはどちらかというところかさ似である。

かがみに強引に呼び出され、神社に来た。

その後、木の陰に隠れていたつかさも出てきた

「お姉ちゃん大丈夫!?」

「心配しないで、大丈夫だから」

かがみはつかさを安心させる

が、その時

“もっていけ最後に笑っちゃうのは”

不意にかがみの携帯が鳴る

見てみるとディスプレイには“こなた”と表示されていた

かがみはすぐさま発信ボタンを押す

「もしもしこなた!?!」

「やばいよ〜かがみ!何やらヴァーチャルな集団がここに襲ってきてるよ〜!」

「えっ!?!」

かがみは思わず声を上げた……………

続く

〈VSサイボーグ編〉MISSION 05 真打チト烈火ノ炎（後書き）

次回予告

かがみ：くっ、倒したと思ったのにしごといわねこのゴリラは！翼
君はこなたの救出に向かったし、どうすれば……
次回、ラッキーファンタジー&つのペンダント、“ソレゾレノ使命”
こなた：無事であるわよね？

VSサイボーグ編 MISSION 6 ソレソレノ使命(前書き)

71日ぶりの更新です。読者のみなさまにご迷惑をおかけして誠に申し訳ありませんでした。これから急速に更新を進める予定です。

“ヴァーチャルな集団”

それは言うまでもなくサイボーグのことである。

「うっ…とにかく助けて〜！」

「わ…わかったわよ！今そっちに助けに行くから必ず生きてなさいよ！あとお客さんを安全な所に誘導しておいて！」

そっぴい残し、かがみは通話を切った

一方、その光景を見ていた男子約2名は……

（うっ……、かがみ相当機嫌悪いな。まあこんな変な集団に神社荒されたら怒りたくなるのも無理はないけどね……あはは）

（翼がこの人のことを名前で呼ぶということは友達という解釈でいいんだよな？実の弟の身の回りにはこんなコワイ人もいたもんだな……女性の恐ろしさを改めて実感できた……）

なにやら違う意味で深く印象に残った瞬間であったという……

ガシャン

「……！？」

マシンゴームが立ち上がりうとしていた

「し、しぶといわねこのゴリラは！」

「よし、こなたは俺が助けに行く！お姉さんはつかさを安全に家まで送り届けてください！かがみと兄さんはそいつを頼んだよ！」

「わかった、任せろ、翼」

「翼君、気を付けて！」

「こなちゃんを頼んだよ、翼君。」

そうして翼は猛ダッシュでこなたのアルバイト先、コスプレ喫茶へと向かった……

ウオオオオオン

マシンゴーレムは完全に立ち上がった

「翼君のお兄様でしたっけ？ 私たちも気を付けて行きましょう！」

「そうですね、うおおおお！」

登は俊敏な動きでマシンゴーレムの攻撃を華麗にかわし、本体に辿りついた

「ライフドレイン！」

その言葉を放ち、登はマシンゴーレムに強い切り込みをいれる。

そして素早い動きで敵から遠ざかった。

ライフドレインとはその名前の通り相手の体力を吸収する技である。よってこれのおかげで登の疲労は少しとれた。

「次はわたしの番よ！ いけ！ フレアアロー！」

かがみの武器から5〜6個の火の玉が矢の如く敵に襲いかかる。しかし

ゴゴゴゴゴゴゴ

マシンゴーレムは高速回転し、それをはね返す。そしてさらには腕を高くあげ、地面に叩きつけ、衝撃波を起こす

ドドドドドドドドドド

スマ ラXのガ オムが繰り出すような衝撃波が2人に襲いかかる！

「ぐはっ！」

「お、お兄さん！？」

かがみは何とかよけたが、登はその威圧に耐えられなかったのか、後ろに吹っ飛ばされてしまった。だが幸いにも致命傷にはならなかった。

「くっ、成す術無しね……」

一方その頃、翼はこなたのアルバイト先、コスプレ喫茶まで辿りついた。

「こなた、無事でいてくれよ…」
翼は再び走り出す。

VSサイボーグ編 MISSION 6 ソレソレノ使命（後書き）

次回予告

つかさ「私は何とかまつり姉ちゃんと家に戻ったんだけど、なんだかすごく嫌な予感……。こなちゃんと翼君は大丈夫かなあ。

次回、ラッキーファンタジー8つのペンダント、“刃ヲ向ケル蒼イ影武者”

はっ！そういえばお姉ちゃんたちも無事かなあ！？

SUB MISSION オリキャラ紹介1

こなた「第1回、オリキャラ紹介〜！」
かがみ「（い、いきなり何を言い出すんだこいつは……）」
こなた「ラッキーファンタジーにしか出てこない人物を紹介するのがこのコーナーなのだよかがみん」
かがみ「いや、だから訳分かんないって」
こなた「では早速いつてまいましたよ〜！」

第1回

てんかいつばき てんかいのぼる
天界翼&天界登

こなた「やほ〜翼君、とそのお兄さん！」
翼「おう、こなた」
登「そして読者のみなさま、いつもラッキーファンタジーを読んでいただき、ありがとうございます。」
こなた「では早速ですがおふたりさん、まずは誕生日と血液型をお願いします！」
翼「おk、9月2日生まれのO型です」
登「俺も同じく」
こなた「なるへそ〜、てことは双子？」
翼「双子は双子んだけど、二卵性だから性格とか癖とかが全然違うところが多いかな」
こなた「そーなんだ。では身長と体重を教えてください」
翼「身長は163.5cm、体重は52.7kgだっ たっけ」
登「俺は身長が165.2cm、体重が53.0kgです」
こなた「へ〜、2人とも結構身長高いんだね〜」
翼「でもクラスの男子の中では中くらいだから、そんなに言うほど

高くはないよ」

こなた「そつか、じゃあ最後に好きな物（事）、嫌いな物（事）を教えてもらいましょー」

翼「好きな食べ物は何系全般と刺身、好きな事はテレビを観ることとネットすること、嫌いな食べ物はナス、嫌いな事は予定変更と行列かな」

こなた「結構嫌いな事の内容はわがままだね」

翼「う、うるさいよ」

登「次は俺か。好きな食べ物はエビ系全般と麻婆豆腐、好きな事は漫画や小説の読書全般、嫌いな食べ物はレタス、嫌いな事は寝坊」

こなた「お兄さんは翼君とは違ってクールなイメージあるね」

翼「そ、そうかな？お兄ちゃんもわがままなところの1つや2つはあつたはずだけどな」

登「……………」

こなた「それではまた次回お会いしましょー！」

引き続き、本編のラッキーファンタジーをお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9976f/>

ラッキーファンタジー 8つのペンダント

2010年10月10日01時44分発行